

ず、漢文の佛典に梵本以外のものより重譯せられたるものあるべきは、余曾て之を説けり（藝文第二年第四號又、而して回鶻に於ける佛典は、漢文より譯せるものあるは論なけれど、漢文以外のものよりせしことも、亦た顯然たる事實にして伯林に存する回鶻語彌勒下生經の跋文には、印度語より觀貨羅語トカラに譯し、觀貨羅のものより回鶻語に譯せしことを明記せるが如きは其の一例なり（藝文同上參看）、果して然らばかく漢・回兩譯の現存する場合、此の兩者については、先づ次の兩項を注意せざる可らず、

一、兩者相互に直接の關係は存せずして、各々梵本より、もしくは其の他の翻譯より、更に譯述せしものなるか、

二、兩者中の何れかの譯が、他の一方の原となりしには非るなきか、

勿論此の如きは、眞に此の經が佛說にして、古くより印度に存し、漢・回の兩者とも直接或は間接に之を譯したるものなりと考へたる上のことなりとす、然も怪しむべきは、此の經は佛說と曰ひ、また義淨譯と記しながら一切藏經中に收められず、またその經中には眞に佛說正經と思料し難きもの諸所に存在せり、之を貞元釋教錄に徵するに、其の偽妄亂眞錄中に曰く（縮藏結帙七、八）「天地八陽經一卷、卷末題云八陽神呪經、與正經中八陽神呪、義理全異、

此說陰陽吉凶禳災除禍法、八紙」と、これ勿論此の佛說天地八陽神呪經のことなるべければ、貞元錄の當時既に偽經とせられたるものなるを知るべし、更にまた寂照堂谷響集には（續集第五、大日）「有說曰、唐則天朝、皇甫氏某

造天地八陽經、稱之杜撰八陽經、以眞如之所吐露、不由師承、故準擬之也……今讀流行題佛說天地八陽經者、實知所謂杜撰者也」と云ひ、また同書に開元錄偽妄亂眞錄に、上記貞元錄の記載あることを記せり、されど此の開元錄